

令和5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492900129	事業の開始年月日	平成23年4月1日
		指定年月日	平成23年4月1日
法人名	社会福祉法人 清琉会		
事業所名	高松山グリーンホーム		
所在地	(〒243-0038) 神奈川県厚木市愛名1170-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年11月11日	評価結果 市町村受理日	令和6年3月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/14/index.php
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者についてはご家族を含め、安心した生活が送れるよう日々努めています。新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症により職員の不安やストレスは常にあります。やりがいを感じることで果敢に業務に携わっています。現状では運営推進会議等もまだ再開されていませんが、施設内において季節に応じたイベントを企画しご利用者に楽しんでいただいています。地域との交流なども徐々にコロナ前の状態に戻ってきており積極的に参加しています。外出や面会などは依然として制限させていただいていますが、感染予防の観点からご利用者・ご家族にはご理解・ご協力をいただいています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和5年12月26日	評価機関 評価決定日	令和6年2月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 当事業所は、小田急小田原線の本厚木駅からほど近い厚木バスセンターよりバスで約20分、宮地バス停から徒歩3分ほどの自然に恵まれた丘陵の住宅地に立地している。法人は特別養護老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅、2つのグループホームなどを運営し、地域の介護福祉事業の拠点としての役割を果たしている。 【理念に基づき、利用者主体の支援の実践】 職員は法人理念に基づき、利用者の主体性を尊重し、穏やかな日常が送れるように、見守りを重視して支援をしている。利用者は主体的に調理や後片付け、清掃などを手伝い、自由に季節の和菓子作りなどに参加している。毎月実施している医師による臨床絵画指導では、集中して絵を描き、脳を活性化させる事で利用者の自立に向けた支援をしている。 【職員の働きやすい環境づくり】 法人は人事考課における3次にわたる面接とキャリアパスに基づく目標設定、資格取得などの研修の充実、休暇の取得や行き届いた福利厚生など働きやすい環境を整備しており、職員は働き甲斐を感じながら、日々の利用者支援に当たっている。 【地域に根差した事業所を目指した積極的な地域交流】 天気の良い日には、車いすの利用者も一緒に散歩を楽しみ、近隣の方と挨拶を交わしている。愛名ミニデイサービスで行うイベント、地域の年末美化清掃や防災訓練、お祭り、盆踊り大会に参加している。保育園や敬老会との交流や、飯山あやめの里散策など、コロナ5類移行後は、一層、積極的に地域との関わりを築いている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	高松山グリーンホーム
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

事業所名	高松山グリーンホーム
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念としては『あなたの安心のために』とし、ご利用者・ご家族、地域、職員それぞれが安心して生活、働くことが出来るように実践しています。	法人理念は「あなたの安心のために」を受け、「ご利用者・ご家族の穏やかな日常のため」「地域の皆さんに何かあった時に頼れる存在として」「職員の皆さんが不安なく働くことが出来る職場である」との行動指針を定めた。事業所は法人理念に基づいて年間の重点目標を設定している。管理者は重点目標のうち、特に「チーム力の向上と快適な職場作り」に力を注いでいる。理念は玄関や事務所などに掲示して、誰でもわかるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症予防対策のため外出・面会制限や運営推進会議も依然中止している状況ですが、資料等の配布は継続しています。また、地域イベントには可能な限り参加しており、地域の一員として認めていただけていると思います。	「愛名自治会」に加入して、地域の情報は回覧板で得ている。利用者は、愛名ミニデイサービスで地域の高齢者と一緒に七夕飾りの短冊を作ったり、クリスマス会への招待があり参加している。自治会の年末美化清掃にも職員と一緒に参加した。防災訓練、盆踊り、敬老会、飯山あやめの里散策などにも参加し、積極的に地域の方と交流を図っている。近隣の保育園からは、壁画を贈られた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	世間的にはコロナ対策が緩和されてきていますが、事業所としては感染予防を継続しているため地域に向けての理解や支援方法が確立出来ていないのが現状です。出来ることから取り組んでいきたいと思っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議は中止となっており、現在は書類のみを委員に送付させていただいています。2ヶ月に1回、事業所の取り組みや入居者状況を報告し、確認していただいています。	運営推進会議は2ヶ月毎に、書面で開催している。参加メンバーは家族、オーナー、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、自治会長以外で役職がついている方、管理者・職員である。事業所の運営状況、事故報告、行事案内、情報交換などを議題としている。メンバーには意見や提案などを尋ねているが、特に上っていない。地域包括支援センターには議事録を郵送している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居の見学・相談等で地域包括支援センターとの連絡はしています。事故報告等では、事故内容や再発防止策を厚木市介護福祉課に報告しています。	窓口の厚木市介護福祉課に、事故報告の内容や再発防止策、現状報告などを行っている。介護保険要介護認定更新手続きや区分変更などを相談している。地域包括支援センターとは空き情報や受け入れ等で連携している。厚木・愛甲地区連絡会に加入してコミュニケーションスキルなどの研修を受講している。神奈川県高齢者福祉施設協議会にも加入している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針について全職員が研修に参加しています。また、今年度は指針の改定も行い、身体拘束について、改めて職員一人ひとりが再確認し、理解を深めています。	身体拘束をしない旨、重要事項説明書や運営規程に明記している。法人が毎月「拘束廃止・虐待予防実践委員会」を開催し、事業所の常勤職員が委員として参加している。その中で「身体的拘束適正化検討委員会」を3ヶ月毎に開いている。委員以外の職員は議事録などで情報を共有している。「身体的拘束等の適正化のための指針」や「身体拘束廃止マニュアル」を作成している。管理者は特に、否定的な言葉遣いや、強い口調で話すことのないよう指導している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について位置付けている意識調査(一斉点検)を毎年12月に実施しており、それに基づいた研修も全職員が参加しています。常日頃から絶対にあってはならないことと理解しています。また、啓発ポスターを掲示しています。	法人において、身体拘束廃止と同様に高齢者虐待防止についての「拘束廃止・虐待予防実践委員会」を設け、「高齢者虐待防止に関する指針」「高齢者虐待防止に関するマニュアル」を作成している。法人研修で年1回虐待についてのセルフチェックを実施して、その結果を職員にフィードバックしている。虐待防止に関する研修は動画と資料によって行っている。不適切なケアについて、管理者は注意を払っており、現在、虐待を疑うような行為はないが、万が一にも発見した場合には、すぐに管理者に報告するようになっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の研修などには参加ができていませんが、必要になった時の連絡先等を記しているパンフレット等は取り揃えており、職員が確認出来るようになっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、出来るだけわかりやすく丁寧に説明することを心掛けています。入居前はご本人だけでなく、ご家族の心配や不安も大きいいため、できるだけ心配・不安を解消し入居されるよう対応しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にご意見箱を設置し、日ごろから意見・要望を取り入れられるようにしています。苦情に関する問い合わせも、相談窓口を設置しています。また、ご家族への連絡も行っています。	運営推進会議や事前連絡による面会時などに、家族の意見や要望を把握している。在宅時に利用していた訪問マッサージを再度利用したいとの要望があり対応している。家族の要望で遠方から6名の友人の訪問予約があり、3名ずつに分けて面会を実施した。家族の来所がない場合には、電話や手紙で意見を聞き取っている。法人から年2回の機関紙「清琉」を家族に送付している。毎月預かり金を清算し、領収書を発行、送付する際に、家族に向けて、利用者の近況を記した手紙を同封している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月法人内の運営会議に出席し、ご利用者・職員状況や提案事項なども合わせて、事業所報告を実施しています。そして決議事項等を会議録と合わせて職員は確認しています。	法人主催の理事長と管理職クラスの運営会議が設置されている。会議の内容は書面で、職員に回覧している。事業所としてはコロナ禍との理由によって、ユニット会議を中止していた。職員は、人事考課面接時に上司（課長）および管理者や理事長と話し合う機会がある。職員は、日常、業務時間内に管理者と話をしている。職員は、備品の購入や家族への依頼事項などの意見や要望、連絡事項を、申し送りノートやタブレットに入力して、情報を共有している。	職員の意見を聞く機会としてユニット会議の再開を望みます。ユニット会議において職員の意見や要望を把握して、職員間の意見交換や研修をずる場を設定することで、コミュニケーションが図れ、チームワークの醸成も期待されます。
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、人事考課制度を用いて、職員の能力や勤務態度、業務に対する貢献度や業績を一定の基準で評価し、向上心を持って働けるよう努めています。	出退勤を含めて、労務管理全般を法人が一括管理している。健康診断を年1回、夜勤者は年2回実施している。ストレスチェックも年1回実施している。認知症介護の基礎研修などの外部研修は出勤扱いで受講料などはすべて法人が負担している。人事考課面接は、1次は上司（課長）、2次は管理者、3次は希望により理事長が実施している。産休、有休、時短制度、再雇用制度などが整備されている。また勤続年数10年、20年でリフレッシュ休暇の取得がある。神奈川県高齢者福祉施設協議会から永年勤続のお祝いの品物が届いている。福利厚生として旅行の費用負担やディズニーランド見学の補助もあり、働きやすい環境を整備している。休憩室として、各フロアの事務所を使用しているが、自由に使える環境になく、職員から休憩室設置の要望がある。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修がある場合、全職員に参加を働きかけています。また、勤務等で参加出来ない職員には、その時に使用した資料などを確認していただき、内容を共有出来るよう努めています。	キャリアパスを作成し、個人の目標を明確にしている。法人研修や外部研修の受講を非常勤職員も含めて推奨している。研修後は資料の回覧により情報を共有している。法人内に各種委員会があり、各事業所から常勤職員の委員を選出して、職員の資質向上に努めている。新人研修は法人の育成委員会が行っており、事業所においては、ベテラン職員がマンツーマンでOJT教育をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	神奈川県高齢者福祉施設協議会の会員となっており、連絡会や研修等に参加できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設の見学・相談時に不安や要望などを確認し、把握した上で入居申し込みや入居前面談を行い、入居環境を整えるようにしています。 ご本人、ご家族が安心して入居できるよう、ケアマネとも情報共有し対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時からご家族の心配事をくみ取れるよう傾聴し、説明を実施しています。そして、面談時にもご意向確認を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居直後は、ご本人、ご家族も不安であると思います。状況を記録し、職員間で共有し、ご家族とは細かに連絡を差し上げるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活を重視して、自分で出来ることを最大限に発揮できるよう、楽しみながら生活していただけるよう努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段より、ご本人の状況を説明・報告をしています。そして、心身状況で対応が必要な場合は、職員とご家族が共に協力し、支援するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会に関しては事前の予約制としマスク着用、手指消毒、玄関先を開放した状態や屋外、少人数、短時間など制限した状態で面会して頂いています。	友人や知人の訪問があり、玄関で対応している。電話の取り次ぎや手紙の投函を支援している。家族対応で墓参りや帰宅したり、馴染みの理美容室に行く方がいる。孫の結婚式に参加する方もいる。従前からの習慣として、読書や新聞を購読している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士、また、ユニット間でも交流しやすいよう職員が状況を把握して、関わりができるような声掛けやレクリエーションを実施しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談等があれば対応するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前面談時に聴取して把握するように努めています。	アセスメントや日々の支援の中で利用者の意向や要望を聞いている。入浴や散歩などの1対1の場面を大切にして、意向や要望の把握に努めている。耳が聞こえにくい利用者には筆談により、意向を把握している。発語の困難な利用者には表情や仕草などから把握するようにしている。集めた意向などはタブレットの経過記録や申し送りノートなどに記録して、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談時に聴取して把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	慣れ親しんだ生活様式を取り入れながら、穏やかに生活できるよう努めています。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを実施し、課題や提案事項をチームで共有し、介護計画に反映し、作成しています。	まずはアセスメントを実施して、初回介護計画を作成している。1ヶ月様子を見て、利用者・家族・看護師などが参加するサービス担当者会議で正式な介護計画を作成している。サービス担当者会議は計画の更新、変更時に行っている。見直しは短期は6ヶ月、長期は1年で、変化のある場合にはその都度見直し、計画作成担当者が定期的にモニタリングを行っている。医師の意見は「居宅療養管理指導書」や「受診記録」などから収集し、家族の意見は来所時や電話などから把握して、介護計画に反映させている。	介護計画のサービス内容に番号を付け、タブレットの経過記録にその番号を記入して、介護計画と日々の支援の連動を図ることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の身体的・精神的状況や様子・状態、生活状況を介護記録として残し、その情報も含めカンファレンスを行い日々のケアを実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療や往診、居宅療養管理指導、福祉用具の活用など、ご本人やご家族の状況に応じて必要なサービスを提案・相談しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出する機会が少ないですが、安全面に配慮しての地域行事には参加し楽しんでもらえるように支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望により実施しています。受診の際は、近況を記載した受診記録や健康チェック表等を用意し主治医宛に連絡事項としてお渡ししています。訪問歯科も個別契約で治療を受けていましたが、現在は行なっていません。	協力医療機関はあるが、往診は個人契約としている。その他の利用者は家族対応で通院している。家族対応の通院時には事業所が受診記録を作成し、担当医師との情報共有を図っている。緊急時は管理者が往診医につなぎ、契約往診医のいない利用者は直接救急搬送の依頼をしている。非常勤の看護師2名が、利用者の健康管理をしている。薬については、個人契約の往診医や協力医については薬局が一包化したものを届てくれる。家族対応の通院は薬を預かって個別に職員が対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	パソコンやタブレットでの記録の他に、介護職員と医師、看護師との間で情報共有出来るよう連絡ノートに記録をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>円滑に対応できるよう、協力医療機関等と情報を共有しています。その情報も必要最小限として、もし相談などがある場合は病院関係者と密に連絡調整するよう努めています。</p>		
33	15	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合の対応については、見学時や契約時にも説明をさせていただいています。特別養護老人ホームや療養型医療機関などの移行に関する相談も行っています。</p>	<p>利用者家族には、重度化した際には、医療体制や設備も整っている特別養護老人ホームに移るという法人の方針を契約時に説明している。事業所においては、重度化した場合の対応や看取りの指針はない。職員は、法人が年1回実施している研修を受講している。急変して看取りにつながった事例があり、その際には看護師や看取りの経験のあるベテラン職員が対応している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人内研修にて急変時や事故発生時の対応など全職員が参加しています。また、フローチャートにより適切に対応出来るようにしています。</p>		
35	16	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回防災訓練（通報・消火・避難訓練）を実施しています。考えて行動するよりも自然に体が動くよう訓練を重ねています。</p>	<p>年2回避難訓練を実施している。その内1回は夜間を想定した訓練である。事業所が行う避難訓練の初期消火の訓練にオーナーが参加している。地域の避難訓練に職員が参加して、三角巾の巻き方や消火の訓練を行った。備蓄品は法人管理しており、缶詰、米、カセットコンロなどの備蓄をしている。BCPは法人、事業所共に作成済みである。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に相手の立場にたち、敬意と感謝の気持ちを忘れずに、言葉遣いや接遇、立ち居振る舞いに気を配れるよう全職員が努めています。	利用者を年長者として敬い、さん付けで呼んでいる。法人が接遇の研修を実施している。トイレ誘導の言葉かけには十分注意を払い、小声で周囲に気づかれないようにしている。個人情報を含む書類は事務所のカギの掛かるキャビネットに保管している。パソコンはパスワードで管理し、各フロアに1台あるタブレットは個人パスワードで管理している。USBフラッシュメモリーは使用していない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者一人ひとりの気持ちや考え方を尊重し、表出していただけのような状況となるよう心掛けています。職員が決定するのではなく、入居者本位となるよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月間予定や週間・一日の予定はありますが、状況や状態により、無理なことは強制することなく自分のペースで生活して頂けるよう臨機応変に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ衣類を着まわさない、季節にあった衣類を着用していただく等、見守りや声掛け、準備を行っています。衣替えも一緒に行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々にあった食事形態で提供し、美味しく召し上がっていただけるようにしています。片付け等の役割をお願いすることもあります。	献立は特別養護老人ホームの管理栄養士が作成し、食材も発注している。生鮮食品の一部の魚類は事業所の担当が発注している。手作りの温かいものを提供する方針で、調理は職員が実施しており、下ごしらえなどを手伝う利用者もいる。正月にはおせち、クリスマスにはケーキの提供がある。春のお楽しみ会には握り寿司を敬老のお楽しみ会ではおはぎや道明寺を作り、夏祭りには手巻き寿司を楽しんでいる。体調に応じて、きざみやとろみ食などの食形態にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養バランスのとれた献立を提供しています。食思不良時は、常識にとらわれず食べたいもの、食べられるものを提供し、また、栄養補助食品等を活用し栄養管理に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚染は、肺炎や心疾患等の疾病につながる危険もあるため、毎食後、必ず歯磨きやうがいを行っています。自身で出来ない方は、職員がお手伝いしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っています	個々の排泄状況を確認し個々にあった排泄方法やおむつ等の物品を使用しコストの削減に努めています。尿意・便意のない方も定時・随時で誘導を行っています。	布パンツを使用して、自分でトイレに行く利用者が12名で、その他の方はリハビリパンツとパッドを使用している。夜間オムツを使用している方が1名、ポータブルトイレを使用している方が3名いる。基本的には排泄パターンを把握して声をかけ、トイレ誘導している。病院から退院時にオムツを使用していたが、支援によりリハビリパンツ使用に改善した方がいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と看護師が連携し、排便コントロールを実施しています。また、排便状況の情報を共有し介護職員は看護師の指示による下剤管理表を把握して対応しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴剤の使用により保湿や保温、リラックス効果を高める他、菖蒲湯やゆず湯など季節の入浴方法も取り入れ入浴を楽しんでいただけるよう工夫しています。基本的な入浴日時は設定していますが、希望により柔軟に対応しています。	週2回、午前中の中の入浴が基本であるが、要望があれば、柔軟に対応している。同性介助も実施している。現在は入浴を好まない利用者はいない。入浴を楽しむ工夫として、ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤などを使用している。浴槽はリフト浴で、湯は、毎回替えている。浴室にはエアコン、脱衣場はヒーターを備え、ヒートショック対策をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内温度の調整や、週一回は必ずリネン交換を行い、安眠できる環境を整えています。また、個々の体調や体力に応じて臥床時間を設けるなどの工夫をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬方法を把握し、ご本人がきちんと服用しやすい性状を主治医と相談し対応しています。服薬に関して変更などがある場合には、記録にきちんと残し職員間で共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の下ごしらえ、食器洗いなど入居者それぞれが出来ることを行ってもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか外出する機会が少ない状況ですが、地域のイベント参加や施設近隣を散歩したり、ドライブに出掛けたりと徐々に外出の機会を拡大しています。	天気の良い日は、車いすの利用者も一緒に事業所周辺の散歩を楽しんでいる。ドライブを兼ねて、森の里やぼうさいの丘公園の紅葉、飯山のあやめの里やざる菊の鑑賞に出かけている。新年には、車で、初詣に出かける予定である。コロナの第5類への移行に伴い、一層、積極的に地域行事の参加やドライブに出かける計画を立てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望により、預り金として個々に事務所管理としてお預かりしています。その中から紙オムツ類や買い物、散髪などができるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等から電話があればお繋ぎしています。現在1名の方が携帯電話を持参されており、居室内でのみで使用されています。また、ご家族や友人から宅配や手紙・ハガキが届くこともあります。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が描いた絵など作品や行事の写真、保育園児からいただいた壁画などを掲載し、楽しんでいただいています。	リビングには空気清浄機や加湿器が備えられている。窓は開放するように努める、換気扇は24時間稼働するなど、換気には常に注意を払っている。清掃は午前中に、職員と一部の利用者が行っている。年3回、業者によるワックス掛けを実施している。手指消毒用アルコールを玄関やリビング、キッチンに設置している。壁には保育園から贈られた壁画や、臨床絵画による作品、習字や貼り絵などが飾られている。愛名ミニデイサービスからもらった花やビンゴゲームの景品の鉢植えの花などを飾り、季節を感じられるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はリビングで過ごされる方が多いですが、食席にも配慮し一人ひとりが過ごしやすい環境になるよう努めています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者それぞれが使い慣れた馴染みのものや好きなもの（写真や本、テレビなど）を持参していただくようお願いしています。施設での生活がなるべく自宅での生活に近い状態になるよう努めています。	危険物を除いて、要望があれば、持ち込みに、その都度対応している。エアコン、防災カーテン、ベッド、クローゼット、洗面台、照明が備え付けられている。居室は広々としており、利用者は馴染みの家具やテレビ、時計を置き、家族の写真、自身の手作りの作品などを飾っている。仏壇や位牌、スマートフォンを持ち込む方もいる。表札は大きな字で表示され分かりやすくなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒・転落のリスクのあるご利用者に対しては離床センサーマットや離床センサーを活用するなど安全に努めています。また、場所の表記や目印、障害となるものをなるべく排除し環境を整えるように努めています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

高松山グリーンホーム

作成日

令和6年3月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	11	職員の意見を聞く機会として、ユニット会議の再開が望まれる。ユニット会議において職員の意見や要望を把握して、職員間の意見交換や研修をすることでコミュニケーションが図れ、チームワークの醸成も期待される。	ユニット会議の実施と意見交換・情報共有の充実を図り、チームワークを構築する	新型コロナウイルス感染症予防の観点からユニット会議を中止しているが、世間での感染対応の緩和等を考慮し会議の再開に向け、参集以外の方法も取り入れつつ、ハイブリット的な会議が実施出来るよう考え、意見交換や情報共有の充実を図っていく。また、常日頃から気軽に相談し合えるような職場環境になるよう職員間でコミュニケーションをとっていく。	令和6年3月15日 ～令和7年3月31日
2	26	介護計画のサービス内容に番号を付け、タブレットの経過記録にその番号を記入して、介護計画と日々の支援の連動を図る	介護計画と日々のケア記録の連動と充実を図る。	介護計画に基づいたケア記録と充実を図るため、個々のサービス内容をカード形式に整理し、日頃から行っているケアを介護計画とリンク出来るようにしていく。	令和6年3月15日 ～令和7年3月31日
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。